

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 3 月 30 日作成)

小委員会名	コミュニティ居住小委員会		主 査 名：新井 信幸 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)		委員長名：大原 一興 主 査 名：黒野 弘靖
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2018 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>〈設置目的〉 少子高齢社会、人口減少社会、災後社会における家族構造、社会構造、都市構造の変化をふまえ、「居住の安定」を達成するための研究・実務の枠組みをコミュニティ視点や人間視点から幅広く整理・検討・提案することを目標としている。具体的には地域・コミュニティの現場で生まれ醸成されてきた繋がり・文脈や生活体験を読み解くことを通じて、今後あるべきハウジングに資するハード・ソフト両面の知見と課題を得る。〈活動計画〉</p> <p>初年度： ・ 前年度 (2015 年度) 大会オーガナイズドセッションを受けた議論を通じて問題意識を共有する ・ 「居住の安定」を可能たらしめる研究・実務の枠組みのあり方・理念について議論し、公開研究会や大会での研究集会を企画・実施する。</p> <p>2 年度： ・ 「居住の安定」にかかわる様々な居住課題を取り上げた研究集会のシリーズ化について議論する。 ・ 2017 年度末を目処に、これまでの委員会での議論や活動成果をまとめた出版の企画を完成させる。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：新井信幸 (東北工業大学)、幹事：安武敦子 (長崎大学) 委員：藤岡泰寛 (横浜国立大学)、阿部俊彦 (早稲田大学)、真野洋介 (東京工業大学)、小杉 学 (明海大学)、原田陽子 (福井大学)、森重幸子 (京都大学)、牧野 唯 (日本工業大学)、西野達也 (金沢大学)、後藤智香子 (柏の葉アーバンデザインセンター)、櫻井典子 (新潟大学)、川崎興太 (福島大学)、吉田 哲 (京都大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>仮設住宅リユーススタディ WG 仮設住宅の再利用のあり方の検討を通じて、被災者の自力再建の費用負担をおさえ、かつ、中期的な利用を可能たらしめる住宅の可能性についてケーススタディを行う。</p>		
2017 年度予算	135,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/j-000/j100-12/j150-12.html</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	<p>1. ツナガリ学会 (2/17@仙台) -公開- 2. さくらガーデン見学会 (3/31@横浜) -公開-</p> <p style="text-align: right;">参加者数 35 名 参加者数 30 名</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「居住の安定」のあり方・理念についての議論は、今年度も震災復興関連の情報蓄積が得られた。 ・ 「居住の安定」にかかわる様々な居住課題を取り上げた研究集会のシリーズ化について議論し、2018年度の公開研究会等を開催することとした。
<p>委員会活動の問題点 ・ 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有や議論においては、震災復興関連に偏りがちなところがあった。 ・ 昨年度同様、シェア居住や居場所の実践に関する情報蓄積がされてきているため、次年度以降の出版等を目指したい。